



最終処分場を3倍に

青森クリーン(おこ)が計画

青森クリーンが運営する既存の最終処分場。拡張後の埋め立て容量は約3倍となる＝むつ市奥内二又山

むつ市奥内二又山で産業廃棄物最終処分場を運営する青森クリーン(春好光社長)が埋め立て容量の拡張を計画している。現在の十四万立方メートルから約三倍の約四十三万立方メートルとする計画で、十日から環境影響評価方法書の縦覧を始める。二〇一〇年九月の着工、一二年九月の完成を見込む。

同社の処分場は〇七年三月から廃棄物を受け入れていた。〇七年度は、ガラス、コンクリート、陶磁器、くすのぎ、燃え殻など約千五百六十五トン、燃え殻四百九十七トンなど約三千九百二十八トンを埋め立てている。計画では既存の処分場の面積を約二倍に、埋め立て容量を約三倍にそれぞれ増やす。拡張に伴い、管理棟近くに浸出水調整施設を増設する。同社の加藤秀人専務は「コンプライアンス(法令順守)を徹底し、安全な処分場を運営することで、地元への貢献を続けていきたい」と話している。